

自己実現 2025

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

【第3回実力考査教科・科目別講評】

<国 語>

(現代文分野)

【一】論説的文章では、傍線部を具体的に言い換えて説明する問題(問四、問六)において、要素不足で減点された解答が多かった。明らかな比喩表現や抽象表現、筆者の言葉をそのまま解答に書いているものが散見された。記述演習を重ねることで、自身で言い換えの表現を考えたり、一般化したりして自分の言葉で説明する力をつけよう。

【二】文学的文章では、語彙力の不足と記述問題に対する意欲不足が見受けられる。一題のみの記述問題に対して、一字も入れずに空欄にした答案が約3割に上る(345名中、115名が未記入)。また、唯一の記述問題は登場人物の行動の意図(「何のためか」)を問うものであったが、これまで同様、文末処理が適切にできていない。講評を書く徒労を思うだけである。

(古典分野)

【三】古文では、二種類の本文から出題したが、総じて内容の読み取りが粗雑すぎる。一方の文章に述べられていることが、もう一方の文章のどの点に関連しているのか、また、一方の文章ともう一方の文章とでは全く別の話題であるのかどうか、などを読み取れていなければ記述の正解率は上がらない。そのためにも基本文法と語彙力の充実に向けてさらに努力していかなければならない。既に配っている解説プリントを利用して徹底理解をしておくこと。

【四】漢文では、句法・語法の基礎の養成がどれだけ見受けられるかと期待していたが、残念ながら結果は振るわず、夏休みに基礎力の充実・安定に向けて十分に時間を費やしたとは思われない。特に理系で空白の解答欄が目立っていた。記述型ではあっても難易度は共通テストレベルであったので、必ず復習しておくこと。また、「之(ゆク)」と読むことができなかったり、「儒家」の思想と「道家」の思想との対比的解釈を整理することができなかったり、漢文の知識が貧弱であると言いかげなく嘆かざるを得ない。問題演習に気合いを入れて臨まねばならない。

<数 学>

前回に続き、大問のみの出題となりました。普通科の平均点は下がり(文系 38.9→31.8, 理系 46.0→39.0), 総合理学科の平均点は上がる(74.9→78.0)結果となりました。総合理学科の頑張り、問題演習中心の授業に切り替わったタイミングが普通科より早いことが要因として考えられます。普通科生徒には焦らず、現在行っている問題演習にしっかり取り組み続けて欲しい所です。

1 (共通) 等面四面体を題材にしたもの。[1] (1) (2) は図形の面積、体積を求める標準レベルの問題。

2 (共通) 漸化式。出来は二極化の傾向が見られました。(1) の数学的帰納法は基本的なもの。(2) は置き換えの式が与えられているので、式変形の大きなヒントになっていることに気づきましょう。漸化式については青チャート P461~の内容を参考にして下さい。本問では p484 (重例 46) から p467 (基本 35) へと繋がります。

3 (共通) 反復試行・条件付き確率の問題。反復試行自体は最後の1回の試行を分けて考えるよくあるものです。(3) の式について理解が難しいようなら質問に来るように。

4 (文系) 軌跡、通過領域を求める問題。問題文の条件がしっかり理解できていない解答がよく見られました。(2) 2点 P, Q がどの直線上にあるかは図をかけば確認できるはず。 (3) まではしっかり解けて欲しい問題です。

4 (理系) 数列の極限に関する問題。図をかくことで三角形の面積から $\tan$ を利用、加法定理に辿りつくまでが大きなカギでした。三角関数の知識の確認にもなる問題でした。極限については三角関数の極限の基本です。

5 (文系) 微分法の問題。接線の傾きが2次式で表されるので、平方完成して最小値を…とつながる問題です。微分、増減表、場合分けと、題材としては頻出なものばかり。4STEP や青チャートの類題も参考に。

5 (理系) 2次曲線(双曲線)の問題。曲線上の接線の方程式の公式はおさえておこう。また、軌跡

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

<ご意見・ご質問をお寄せください>

『自己実現 2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。

を求める際は図形の名前を答えること、xの範囲についても留意するように。
6 (理系) 媒介変数で表される曲線の問題 (伸開線：インボリュート)。点の座標はベクトル方程式と三角関数を用いて、面積は媒介変数利用の積分です。試験中にじっくり解く時間が無かった人は是非やってみて下さい。
これから向こう1カ月は中間考査、第4回実力考査 (進研記述模試)、第3回全統マーク模試、第5回実力考査と試験が続きます。更に塾で独自の模試を受験する生徒もいるでしょう。消化不良に陥りやすい時期ですが、解けなかった問題を見直し、解けるようになる作業を怠らないで下さい。同じ失敗を繰り返さないことです。

<英 語>

夏休み明けの考査でしたが、どうでしたか。夏休みに頑張った成果は、出なかったかもしれませんね。何事も、努力の成果が結果として現れるまで3か月ほどかかります。先日、72回生の教え子が私を訪ねて母校に来てくれました。彼は二浪の末、医学部医学科に進学しました。テストの準備は、それはそれは大変だそうです。脈絡のないことを大量に、2週間前から覚え始め、前夜にはとにかく詰め込むそうです。大学入試の世界史なんて、今の勉強量なら楽に覚えられたなあ、と言っていました。医学部医学科を卒業して国家試験に受かり、医者として働きだしても「一生勉強です」と言っていました。入試に地域枠というのがあり、卒業してから一定期間、定められた地域で働く、という条件で行われる入試のことですが、そういう地域は一般的に、患者も少ないが医師も少ない。「先生、かぜを診てもらったついでに、目の具合も悪いねんけど」とおばあちゃんに言われれば、診察せざるを得ない。都会の病院で働いていたら、当然、最先端の医療事情を知っているものと思われる。どんな情報も、おそらく論文も、インターネットで検索・閲覧できる時代です。「そんなこと知らなかった」は、許されません。あなた方が出て行く社会は、私たちのそれよりも、ずっと厳しい時代だと思います。今も大変でしょうが。

あなたがたの時間にも限りがあります。英語は意外と、そんなに変わりません。高校での授業の英語、大学入試で問われる英語、日常生活や仕事に必要な英語、検定試験に必要な英語。多少の傾向と対策があるにせよ、大差ありません。共通テスト対策や二次対策、と躍起になるのはわかります。ならば余計に、一つを勉強するときに、複数の技能を伸ばそうではありませんか。Readingだけでなく、Listeningも、Writingも。LOOPの速い音声に合わせて授業で声を出していたら、英語が口からぼんぼん出てくるようになった自分にびっくり。単語も、授業で「ん???」と思った単語を自分の単語ノートに書き溜めて、3分でも時間があれば、見直しましょう。覚えようとせず、見る回数を増やすこと、それが記憶のコツです。語彙力があれば、大学入試のみならず、その先の、大学での学びや、外国人とのコミュニケーションの際に、役立つと思います。限られた時間を大切に、楽しんで。まだまだいけるぞっ!!

学年平均

学年全体 平均 65.3 / 200 点					
No.1 平均 (長文) 38.8 / 100 点			No.2 平均 (文法・和訳・英作) 25.8 / 100 点		
普通科	全体平均	63.3	総理	全体平均	83.6
	No.1 平均	37.7		No.1 平均	49.1
	No.2 平均	24.8		No.2 平均	34.6

大問	1	2	3	4/5/6/7	8/9	10
項目	長文	長文	長文	文法	和訳英作	自由英作
配点	35	32	33	40	40	20
全体平均	13.0	12.0	13.8	10.4	12.5	3.2
正答率(%)	37.2	37.5	41.8	26.1	31.3	16.0
普通科平均	12.6	11.5	13.5	10.0	12.1	3.0
正答率(%)	52.8	27.8	35.2	25.1	30.4	15.0
総理平均	16.3	16.1	16.6	14.0	15.9	4.6
正答率(%)	46.7	50.4	50.3	35.0	39.8	23.2

＜物 理＞

1 は力学分野の出題で、容器に満たした液体中での円柱の浮力と単振動について、浮力と単振動の関係を理解して物理量（加速度、角振動数、周期、仕事等）を求める問題である。2 は熱力学の分野の出題で、ピストンがついた円筒容器内について、気体の状態変化（等温変化・定積変化・定圧変化）の過程で、熱量、仕事を求め、4 点の状態での温度、圧力、体積の関係を表す問題である。3 は波動分野の出題で、水面の円形波の反射について、水面波の干渉の条件から、波の波長、速さ、振動数を求める問題である。4 は電気分野の出題で、3 枚の導体板によるコンデンサー回路について、平行板コンデンサーの極板間隔を変えて電荷、電場、静電エネルギー、静電気力を求める問題である。

1 の力学分野は全体の得点率が 38.2%とやや低調であった。特に、総合理学科の 52.3%に比べて、普通科は 35.3%で力学の解法で浮力・運動方程式・単振動の関係式の理解がまだ十分でないと思われるので、運動方程式等の力学の関係式から物理量を求めることができるようにしたい。2 の熱力学分野は全体の正答率が 47.4%であったが、熱力学第一法則と気体状態方程式から定積・定圧モル比熱の関係を求める設問では正答率 24.8%程度と低いので、関係式から物理量が求めことができるようにしたい。3 の波動分野は全体の正答率が 28.9%と低調であった。特に器壁からの反射と干渉の設問では、正答率が 6.9%しかなかった。波動の干渉現象を理解が十分できていないので、基本的な問題から復習して理解する必要がある。4 の電気分野については、3 枚の金属板のコンデンサーについて、並列接続及び静電エネルギーの意味をしっかりと把握して、極板を動かした場合についても電場、電気量、静電エネルギーの変化などが求めることができるようにしたい。

前回の実力考査より力学分野の正答率は 10～15%程度上昇しているが、波動分野の正答率は 12%程度減少、電気分野は 9%程度減少している。出題の難易度にもよるが、波動と電気分野については理解がまだ不十分でないので、類似問題を解いて要点を押さえる必要がある。問題演習にしっかり取り組んで、着実に求めることができるようにしておきたい。

	得点率 %				平均点
	1力学	2熱力学	3波動	4電気	
全体	38.2%	47.4%	28.9%	31.5%	34.4 点
普通科	35.3%	48.1%	27.1%	31.5%	32.6 点
総合理学科	52.3%	53.7%	39.7%	34.3%	42.8 点

＜化 学＞

全体の平均 3 2. 3 点、最高点 7 8 点。2025 年度入試は、新カリキュラムに準じた内容となる。特に熱化学においてエンタルピー変化を用いた表記となるため、この分野での入試の過去問は使えなくなる。今使用している問題集を最大限利用することが重要である。今回の実力考査より実際の大学入試問題をベースとした内容としたため、難易度は上がっているが、基本的な問題の配点が高いため、平均点は第二回実力考査とほぼ同じ値である。大事なのは基礎・基本といわれる内容を理解し、応用につなげていくことである。年代測定における K-Ar 法など今まで出題されなかった内容も、原理を理解し、解いてもらいたい。これからの一時間一時間の内容を大切にしてもらいたい。

＜生 物＞

知識・技能

(配点 47) 得点率 37. 7%、

思考・判断・表現

(配点 5 3) 得点率 28. 9%

生物が受験に関係ないということなのか、10～14 点の層がボリュームゾーンになっているのが残念である。難問もあるが、定期考査の類題もあり、これまで生命活動に関して学習してきたことを大切にしてほしい。I (遺伝子導入) <A>は、授業で行った遺伝子組み換え実験を理解していれば取り組みやすかったはずである。のゲノム編集や ES 細胞を用いたノックアウトマウスの作成法など生殖技術に関しても知識を深めてほしい。DNA の長さや塩基の含量等を求める

定番の計算問題は必ず得点できるようにしておこう。

II (酵素) リード文も長く、骨のある問題。だが、いつも強調しているようにリード文にすべてのヒントがあり、文頭にある図の酵素 X の立体構造が、問題の最後まで意味を持っている。また、ミカエリス-メンテンの式に関しては、自分で導き出すことによって、ミカエリス定数の意味を理解することができるであろう。酵素の構造と活性・阻害効果の関係についてもきちんと理解しておこう。

III (植物の環境応答) 3 問中最も平易で、最初に手を付けるべき問題。特に<A>は、植物ホルモンの働きに関する知識問題や気孔の開鎖を説明させる頻出の論述問題であり、全員正解してほしい。の共通テスト風の実験考察問題も理解しやすかったはず。窒素同化や生態系の物質収支に関しては、理系の生徒は 3 年 1 学期に学習したばかりのはず。できなかった人は猛省を。

＜世界史探究＞

問題は、既習事項の定着と理解度の確認を目的に古代から近代まで、洋の東西を問わず広範囲に出題し、地図や年号を問うような問題も出題した。論述問題は 19 世紀の出来事とカルヴァンに関する出題で、内容的には基本的な問題であったが、理解がしっかりできていない解答が目についた。平均点は前回より 10 点ほど高く、勉強の成果が出てきている。

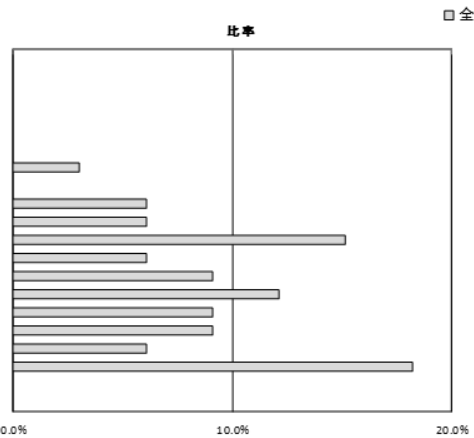
これからは、歴史の流れを理解することが、最も大切で、繰り返し復習し、知識の定着をさせる事が大切である。共通テストは歴史の流れと知識を理解しているかを問う問題の出題が目立つようになっている。決して難しくはないが、以前のセンター試験より歴史の理解力が必要となった。教科書を丁寧に読み込み、授業をしっかりと聞き、まじめに取り組めば、成績は上がっていく。この秋からが、世界史学習の季節である。

得点率分布表
全体

	人数	平均点	最高点	最低点	標準偏差
全体	33	33.0	67	12	15.0

全体(100%中)の各総合得点比率

得点	人数	比率
95～	0	0.0%
90～	0	0.0%
85～	0	0.0%
80～	0	0.0%
75～	0	0.0%
70～	0	0.0%
65～	1	3.0%
60～	0	0.0%
55～	2	6.1%
50～	2	6.1%
45～	5	15.2%
40～	2	6.1%
35～	3	9.1%
30～	4	12.1%
25～	3	9.1%
20～	3	9.1%
15～	2	6.1%
10～	6	18.2%
5～	0	0.0%
0～	0	0.0%



＜日本史探究＞

1 出題内容

大問は【1】古代～中世の政治史、【2】平安中期の政治史【3】平安の文化史【4】摂関期～鎌倉の歴史【5】室町～近世初期の政治史【6】武家諸法度

2 分析

今回は古代～近世前期までが出題範囲であった。広範囲をまんべんなく出題したが史料読解も多かったのもそのあたりに困難を覚えた生徒もいるかもしれない。古典ではないので正確に訳す必要もなくそのような難易度の文が出題されるとも思えないが、大意はつかめるようになってほしい。古代～中世にかけての政治史は問題によっては高い正答率であったので、比較的定着しているように思える。しかし近世初期について問われた 35 のような問題では正答率が低かった。近世について史料の時代背景を間違えたり、うろ覚えの場合には誤答を選ぶことが多かったようにおもえる。古代～中世史がある程度定着した人はそろそろ江戸期に手をだしても良いだろう。まず江戸期の将軍と政策を一致させたり、武家諸法度や公家諸法度などの重要な法令について内容と出された時代をよく把握することが求められる。論述は院政期の統治構造について答える問題と秀吉と朝廷との関係について答える問題を出題した。院政期の経済基盤である荘園や院分国に言及できているものも多かったが全体的な構造の把握に言及するのは難しかったと思う。それぞれの歴史上の政体の権力基盤や統治構造を時代ごとに把握して意識して教科書を読んで欲しい(税制や土地制度には特に注意してほしい)。

＜地理探究＞

マークシート方式が69点分 記述方式が31点分

マークシート方式の平均が59.4% 記述が49.4% 全体平均56.3%

正答率の低かった設問1～3は、自然地形の問題で、2年次の復習を兼ねた問題でしたが出来ていません。ホットスポット、エスチュアリーなど既習の問題です。設問4は地形図の読図、3ヶ所の正誤を問う問題、1ヶ所正解であっても正答にはたどり着けない、よくある問題。正しい知識が必要。設問20は、水産業の国別割合、ベトナムを答えるのは少し難しかった模様。

記述式は、主に2024年度の北海道大学の入試問題(一部改)から、比較的易しい問題です。問1はなじみのある南インドの自然地名、記号式であれば答えられたと思われますが、意外と出来ていない、『大インド砂漠』又はタール砂漠の名称が答えられないのは困りものです。設問6は国の説明文と地図上の国番号を当てる問題はよくできていました。設問2～5は50字程度で説明する問題。設問から解答に必要なキーワードをまず見つけ出して書いて行けば出来るはず、キーワードが抜けていると減点又は0点となります。例えば問2では、インドの気候問題で、モンスーン、インド洋、大陸、雨季と乾季です。共通テストでは記述は関係ないと思っている人がいますが、このような説明が出来ないと(理解していないと)正答は得られませんので基本的な語句は正しく覚えることが必要です。

＜倫理(文)＞

1 出題形式：共通テスト形式。初見資料の読解問題を含む。

2 出題内容

・大問1、2(20点)：「公共」の倫理的な分野から出題(日本の文化・思想を除く)

・大問3(30点)：「倫理」の分野から西洋思想を中心に

3 平均点：全体の平均点は21.7(43.4%)。

大問1、2(公共分野)の平均点は8.3(41.5%)。

8月のマーク模試で「公共・倫理」を解答した生徒の平均点は27.9(55.8%)。

4 分析

・8月のマークで「政治・経済」を解答した生徒は68人(79%)、「倫理」を解答した生徒は18人(21%)。政経を主に勉強している生徒に対し、倫理の学習が手薄でも「公共」なら手が出るだろうと大問1、2を用意した。当然出題事項は基本的なものばかりになるが、平均点が4割にとどまった。全員、1～10は必ず復習して全て押さえること。

・倫理を主に勉強している生徒の平均点は妥当。当然、もっと取ってほしい。

・全体的に、資料読解問題の正答率が第2回実力考査の時より低いのが気になる。読めばわかる問題は、知識がなくても解ける。ただし、考えないと解けない。普段の学習で考えているか。能動的に

＜保護者の方々にも読んでいただきましょう＞

＜ご意見・ご質問をお寄せください＞

『自己実現2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

学んでいるか。人間、考えるのは面倒なのでつい受動的な学びになりがちだが、1, 2年生の時に取組んだ「問い」を立てて答えを探る、という流れを忘れないこと

5 学習の心構え

- ・「×難しい問題を答えて差を広げる」→「○易しい問題を答えて差をつけられない」
- ・授業中、これまでよりもいっそう集中して、考えてください。毎時間、脳トレです。

〈政経(文)〉

1 出題形式：共通テスト形式。初見資料の読解問題を含む。

2 出題内容

政経分野は50点分。【4】三権や日本の統治構造について【5】市場経済や統計【5】戦後経済史。

主に経済分野が中心であった。

3 平均点：政経分野の平均点は23.7

4 分析

政治経済の経済分野で計算問題をいくつか出題したが、やはり正答率は高めではなかったので計算問題を復習してほしい(GDPなどの経済指標に関係する計算問題、実質経済成長率を導き出す計算問題)。よく解答解説に目を通して計算方法を身に着けること。とくに最近はストレートな計算を聞かずにやや応用的なひねりのある問題が出題されるので、いろんなパターンに慣れてほしい。また【6】の戦後経済史は1945～80年という本校で使用している教科書ではほとんど記述がされていないところを出題した。よって正答率が低めの問題もあったが。あまりこの時代について知らなかった人が多かったとは思いますが、実は他社の教科書ではこまかく記述されているものもある。したがって出題される可能性はあると考えられるので問題演習や市販の参考書などで一度触れておくことをお勧めする。

■ 〈校外模試の案内について〉

【北九州予備校】九州大・広島大(11/4)：神戸国際会館。

申し込み用紙は進路資料室前に有り。各自QRコードで申し込むこと。

※その他、11月～12月実施予定の共通テスト模試の案内は後日連絡します。

■ 10/25(金)・26(土)「第3回全統共通テストマーク模試」

〈時間割〉

10/24(木) LHR	受験届記入	
10/25(金) 放課後		15:15～16:25(70) 数① 16:35～17:45(70) 数② 08:20～09:20(60) 情報 09:30～10:50(80) 英語 11:00～11:40(40) リスニング 〈昼休み 40分間〉 12:20～13:50(90) 国語
10/26(土) 全日		1～3組(文系) 4～9組(理系) 14:00～16:00(120) 地歴公民 14:00～16:00(120) 理科② 16:10～17:10(60) 理科① 16:10～17:10(60) 地歴公民

※自己採点は自宅で行う。

〈注意事項〉

※ 大学入学共通テストで受験する予定の科目の選択を可とします。

→文系で理科基礎ではなく理科を受験したい者、理系で文系学部を受験する予定の者(つまり理系で、地歴公民2科目を受験する予定の者)または理系で理科の試験時間に「理科基礎+理科1科目」の型で大学入学共通テストを申し込んだ者等は、この型の受験を可とします。前述のようなイレギュラーの受験パターンを希望する生徒は10/9(水)までに必ず進路指導部の松井先生に申し出ること。

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

〈ご意見・ご質問をお寄せください〉

『自己実現2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。